

# カトリック六甲教会 教会報

2011

4

No.472

## “新たな心で”

主任司祭 松村 信也



4月1日から新たな地区割（6地区&3ブロック）に基づく、新しくなった「地区会」が始まります。スタートに向けて、地区会コーディネーターの皆様のご尽力はもとより、新たな地区割による新しい「地区会」の各地区長、副地区長の皆様の甚大なお協力によって、全地区足並み揃えて初日から歩み出すことが出来ました。これまでのご協力とご尽力に心から感謝します。また新しい「地区会」が神の望みに向かって歩みながら、さらに信徒の皆様にご喜びを配る“つながり”の絆の糸を新たな「地区会」で育てていけるよう、これからも力を合わせて互いに“分かち合い、支え合って”活きましょ。

さて先月11日に発生した東北関東大震災による被害は、阪神・淡路大震災を遙かに超える多くの犠牲者、大きな被害をもたらしました。大震災を体験する私たち神戸の信者にとって、他人事ではない思いで毎日をご過ごしているのではないかと思います。こんな時、忘れてはならないことが今、私たちの心に湧きあがっているでしょう。

「連帯」、これは弱いもの同士が結束し、強いものに立ち向かうことではありません。弱いものも、強いものも皆、一緒になって交わりを確認する“つながり”です。その“つながり”にあって、互いに励まし合い、助け合い、分かち合う、その強い心の思いが「連帯」です。東北関東大震災の犠牲者・被災者の方々と心の連帯をし、神戸での体験を通して彼らとの暖かい“つながり”の隣人となれますように新たな「地区会」において、各々の形で実践していくことを願っています。

なぜなら“つながり”こそ、私たち人間が心の底で求めているものであり、その“つながり”によって互いが一人の人間として成熟し、さらに広い社会で“つながり”の輪を広げていくことが出来るからです。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」（ヨハネ 15:5）。と言われるイエスの言葉は、まさにそのことを教えているのではないのでしょうか。

新たな「地区会」の中心は、私たちの信仰の中心であるイエス・キリストです。そのイエスの言葉を心に刻み、主の望まれる教会共同体造りに努めましょ。

インマヌエル（神は我々と共におられる）、その主が「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」（ヨハネ 15:16）と。また主は「古くからの友人をなおざりにするな」（シラ 9:10）とも言われます。遠く離れた被災者の方々と“つながり”そして、今はそれぞれの思いで教会から離れている友に対して、暖かい“つながり”の隣人になれますように。新たな地区割に基づく「地区会」の中で、しっかりと“つながり”の絆が結ばれ、その輪が広がっていきますように。

キリストによって、キリストと共に、キリストのうちに



神は存在するすべてのものを無から創造した。しかも、神は世界を創始しただけではなく、さらに歴史を通じて、世界内に内在し、これを完成へと導かれる。

(1) 旧約聖書に見られる創造信仰：

創世記 2~3 章の第二創造史と同 1 章の第一創造史と呼ばれる箇所において、著者たちは創造に関して、救いと選びへの信仰のうちに書いている。

**\*ヤーウェ伝承**に由来する第二創造史は、最古の叙述であり、はじめの男・女と彼らの生きる世界創造が詳しく記される。それは祭司伝承に比べ人間中心の特徴を示す。物語は、創造を人間および他の全被造物の幸福に心を配る神の善と愛の証拠。創 2:7 において、神はご自分と人間との間に、どのような隔たりをも介入するのを許さない。

**\*祭司伝承**：無と創造されたものとの間の混沌と言う概念は、原初的人間経験に表現を与えるために、被造物がいかにか不定型なものによって危険にさらされているという我々の自覚を客観化するために導入された。創 1 章 1 節の「創造した」というヘブライ語の bara は、「無からの創造」creatio ex nihilo を含蓄していると思われるほど、力強く表現されている。古代世界で創造的働きをすると考えられた天体も、神の創造による。また神話と比べ創造は、神の言葉による命令によって初めて行われていること、しかもそれが魔術的でないことが強調される。創造主が超越的・人格的・霊的存在であり、被造物とは本質的に異なったものである。神は悪の作者ではなく、被造物の被造性は、善である。また神の安息は、世界の基本的構造が完成していること、創造の働きが神と世界との間に新たな関係を樹立するため、拡張されるに及んだことを示す。それは造られた世界に対する情け深い態度である。

**\*両伝承から言えること**：①生きていく人格的・超越的・創造主が存在すること。

②創造主は、イスラエルの神・契約の神と同じ。③神は英知と愛によって創造、それも容易に創造する。④人間は神との直接的交わりのうちに生きる。

**\*預言者**：①神は救世主であると共に創造主である。特に第二イザヤ 43:14-15, 44:24。51 章イスラエルの歴史は、神の継続的創造の業。②倫理的要因；創造主の尊厳から生じる人々の様々な義務（アモス 5 章, 9 章, イザヤ 5:12, 48:12）。③未来との結びつき：創造主による完成（イザヤ 27 章）、新たな創造（イザヤ 40:26-28, 45:18）。

**\*詩編**：創造は、しばしば神と混沌の諸勢力との間の激しい争いとして描写（詩 74, 104）。しかし、二元論的ではなく、この描写は人々の生活体験による。創造によって人々は、神に賛美を捧げる。喜ぶ：祭儀において創造信仰が表明された。創造主の力が昔と同様、現在も示されている（継続的創造）。

**\*知恵文学**：①創造への宗教的信仰よりも、創造の秘儀を理性的に解釈しようとした。そのため救済史的色彩が薄くなった。宇宙論的視点が中心（ヨブ記 37:14）。

②知恵の創造における働きが主張される（箴言 8, シラ 24）。

③世界は一つの見られる景観、人々の探究の対象。また創造は、神の存在の証明にもなっている（知恵 13）。

④創造と救いは、歴史によってではなく、知恵を通して結ばれている。知恵は創造原理であると同時に神の律法である。

⑤創造の業が、世俗的自然領域全体に渡って刻みつけられていることが、主張された。

しかし、救済史的観点の後退の恐れがあった。

(2) **新約聖書における創造信仰のキリスト論的、終末論的側面：**

①キリストにおける創造と贖いの一体性：

キリストの出来事は普遍的に有効である。贖いは創造と同じ源泉である。したがって、贖いも普遍的である。しかし、出発点はキリストの贖いの出来事である。そこで存在論的二元論は、新約聖書にもない。

②「新たな創造」：

アダムとキリストとの比較（ロマ5:12-21）。新しい人（エフェソ2:15）。贖いは創造を完成し、また創造の目的であった。神の計画（ガラ4:4）。

③終末論的局面：

第二の創造は、終末論的局面のもとに現れる。特にキリストの復活において第二の創造は、終末的完成に向けての秩序付けである（完成の連続性）。

④道徳的要請：

神に形って造られた新しい人を着るべきである。新しい人としての生き方（エフェ4:24）。

⑤創造と秘跡：

洗礼；一種の創造の業（ロマ6）。命のパン；キリストの命に与る（ヨハ6:48, 6:27）。

⑥創造と摂理：

神の父としての心使い。それは全民族に対してのみではなく、個々人に対しても払われる（ロマ8:29-39, 9, 10）。キリスト教的楽観主義（ロマ8章）。

(3) **創造に関する教父たちの思想：**

信条の中に必ず入る「天地の創造主、全能の神である父を信じます」。これには、聖書を基礎とした創造信仰が表現されている。教父たちの時代には、二元論的傾向が強かった。プラトニズムは穏健な二元論であり、世界はイデアの世界と物質の世界に分けられ、デミウルゴスがイデアにしたがって、物質世界を創造したとされた。マニ教は、極端な二元論であり、世界は善神と悪神のもとに置かれ物質は旧約の悪神によって創造された悪しき世界であり、新約の善神によってのみ救済されると考えた。他方、ストア主義のような汎神論も流布していた。教父たちは、*creatio ex nihilo*（無からの創造）の理念を聖書的（マカバイ下7:28）、哲学的に展開した。例えば、エイレナイオスは神が初めに自らの善によって、自らの善を与えるために世界を創造する。被造物には初めがあるが、神の忠実さゆえに終わりがないと考えた。

神は最高の善、利己心無しに与えて下さる。創造能力をもった三位一体である。永遠は時間ではない。時間以前にあるもの、神は永遠に御子を生んでいる。世界創造は、神の三位一体の喜びのあふれである。唯一の神の中に、多様な考えがある。（ユダヤの哲人 Philo）それこそ神の永遠のロゴスの考えである。神がご自身の意志決定において、神が変わるのではなく、神によって造られたものが変化する。被造物と神との間にアナロギアがある。必然的結果ではなく、自由なもの。人間は被造物を通して「知られざる神」を認識することが出来る。

円と直線は相反する（*coincidentia oppositorum* ニコラズ・クザーヌス）。

悪について：悪は欠如、悪は悪として、罪は愛の欠如、本来の秩序の混乱である。中世：12世紀前半において、カタリ派は、二元論を説きその影響力はかなり強いものであった。これに対して第四ラテラン公会議は「（良き神が）見えるものと見えないもの、すべての精神的・物質的なものを無から造った」と宣言（DS800）。

(4) **第一バチカン公会議の教義：**

神は天地の創造者である（DS3001）。

善と全能の力によって、自由な計画をもって～すべてを無から創造した（DS3002）。

神は自分の創造したすべてを摂理によって治める（DS3003）。

神の善を分かち与えるため、栄光を広め与えるため(DS3004, 3005)。

(5) 創造についての新しい神学：

- ①創造と超自然的な交流に深い意味がある。神が宇宙万物を創造したのは、初めからキリストに向かわせている。そのため宇宙万物が存在する。イエズがこの世にこられたのは、人間の罪を贖うためというトマス説よりも、御子の受肉が最初から意図されたとするスコトゥス説が有力。
- ②世界創造を語るため、形而上学よりもパーソナルな働きを現す表現を使う。神の創造は自由な諸主体である人間との対話。その人間に自由な役割を与え派遣する。
- ③世界創造を全能の業というより、神の謙虚さの業、創造によって神の謙虚さを現した。神は人間の自由を決定しない。それは全く人間の自由による。プロセス哲学・神学では、神を被造世界によって影響される有限なもの、完成されるものと考えているが、それは行き過ぎである。確かに、神はこの世に無関心ではないが、完全な永遠者である。したがって、この二つのことの調和をいかにするかが問題である。
  - a) バルタザール：全く自由にこの世を存在たらしめたが、創造されたものを本当に愛しておられる。だから神にもアガペーのパターがある。
  - b) オリゲネス：神の永遠のロゴスが人となり、十字架上で死ぬことを拒否したならば、御父の愛の完全な像ではなかつたろう。
  - c) N. クザーヌス：無限の神は相反するものの同一である。だから、神において幸福と痛みとが一つであり得る。
- ④神の働きは超越的、自由な働きである。神はいつも第二原因を通して働くが、第二原因それではない。
- ⑤三位一体と創造を密接に関連さす（バルタザール）。神の中に一もあれば多もある。愛の交わりへの招きである。

主任司祭 松村信也



2011 年度小教区評議会役員・評議員

主 宰：松村 信也 主任司祭

議 長：蛭田

副議長：河野、北上

書 記：井川、平野

評議員：

信徒会会長・コーディネーター

- ・三日月会：鈴木
- ・壮年会：井川
- ・婦人会：平野
- ・青年会：村田
- ・中高生会：Sr 古屋敷
- ・教会学校：吉村
- ・地区会：橋岡

専門部会コーディネーター

- ・宣教部：古泉
- ・典礼部：橘
- ・広報部：藤井
- ・社会活動部：藤井
- ・養成部：宮根
- ・行事部：川崎
- ・施設管理部：藤原
- ・財務部：堀川

## 小教区評議会議長を終えて

前評議会議長 川合

3月20日(日)任期最後の小教区評議会を無事に終える事が出来ました。主任司祭松村神父様のご指導はじめ評議員の皆さまのご協力のお陰と感謝申し上げます。2年前の2009年4月高山前議長から引継ぎましたが、主任司祭の交代という六甲教会にとって大きな変化の時期でありました。私は大学卒業後六甲の地を離れ、40年振りに六甲に戻ってきた帰り新参でした。従いましてこれまでの六甲教会の習慣、しきたり、掟(?)など知る由もありません。松村主任司祭の六甲教会での初めてのミサでの説教で「六甲教会の皆さん、もう少し視野を拡げてみませんか」とのお話がありました。私は今でも鮮明に覚えています。帰り新参の私には非常に心強いというか私を後押ししてくれる様な一言でした。

2009年6月末オルガンの譲受けの話が舞い込み、病み上がりの松村神父様はじめ関係の皆さんと夏の暑い中を2ヶ月にわたり東奔西走しました。これが言わば初仕事でした。譲っていただく先が日本基督教団の教会であったことにも意義があったと思っています。その年の9月には松村主任司祭より「地区会」の大切さについての発信がなされました。地区会コーディネーターのご努力と地区会世話人の皆さまのご理解と熱意で本年4月から新しい地区割での地区会がスタートする運びとなりました。教会共同体は大家族の様なものです。「家族」で教会を支え、共同体を担っていくそんな「地区づくり」を目指したいものです。老若男女・信徒同志の交流、つながり、助け合いの姿がきっと福音宣教に結びついていくものと信じています。

神戸地区宣教司牧評議会、東ブロック会(住吉、中央、六甲)という教会の外での活動にも参加しました。議長、副議長(詫さん、志水さん)の3人での対応でしたが、11小教区の集まりで多数の方と交流することが出来ました。私たち3人は言わば外交官の仕事をして頂いたと思っています。私自身知らない事が沢山たくさんありました。松村神父様の一言「もう少し視野を拡げよう」そのものと感じました。六甲教会はもう少しではなく、もっともっと視野を拡げなければならぬというのが私の実感です。内も大事ですが、外も大事です。

昨年5月には信徒会館リフォームチームが編成され具体的検討に入っていただきました。携わって頂いた皆さまの努力のお陰で今年3月初めにはリフォーム完成お披露目式がありました。素敵な信徒会館になりました。これからは、使わせていただく私たちもリフォームし、リフレッシュして参りましょう。最後にこの2年間の皆さまのご協力とご理解に感謝申し上げます。

## 信徒会館リフォームの完成に寄せて

主任司祭 松村 信也

昨年12月10日から始まった信徒会館のリフォームは、無事3月3日に完成し、翌日4日に鍵の引渡式、そして、6日主日のミサ後、新装された信徒会館にて祝別式と竣工パーティが行われました。約3ヶ月間、信徒の皆様にはご不便をかけたこと先ず、お詫びします。そして、工事期間中、毎日のようにお手伝い下さったH様はじめ施設管理部の皆様にご心よりお礼申し上げます。また引越等で多大の労力を喜んで捧げて下さった方々に、この書面をお借りしてお礼申し上げます。「ありがとうございました」。

完成までの間、期待通りにリフォームされるのかどうか心配でしたが、本当に皆様からのお祈りとご助力にて、立派な期待通りの信徒会館にリフォームされたことを喜んでおります。沢山の信徒の皆様からもご好評を得ており、工事に携わられた方々またリフォーム委員会のメンバーも胸をなで下ろしております。神に感謝!

リフォームされた信徒会館は、信徒の皆様の協力により、この様に立派な会館として生まれ変わることが出来ました。次は、信者である私たち皆が、神様の望みに適った人になるように新たにやらせて戴く番です。信徒会館は、ただうわべだけを塗り替えたものではありません。古くなったところ、使い勝手の悪かったところ、補修を必要としていたところ、生かされた部屋となったところと、

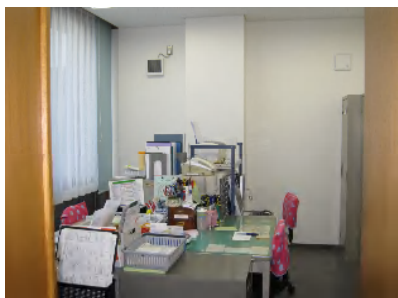


すべてが新たにされました。

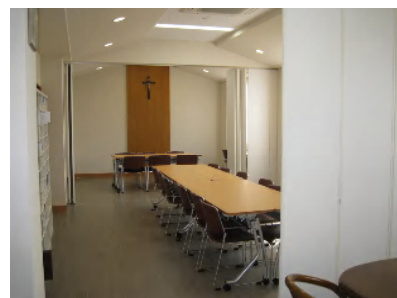
去年の延長ではなく、また昨日の続きでもなく、いつも新たな気持ちで神の国の完成を目指して、新しくなった信徒会館で出会う人たちと共に神様の子どもとして“分かち合い”共に“つながり”の絆の糸を育み、喜びの集いの場となることを願います。 感謝と祈りのうちに

## ■リフォームされた部屋

### 1階 事務所



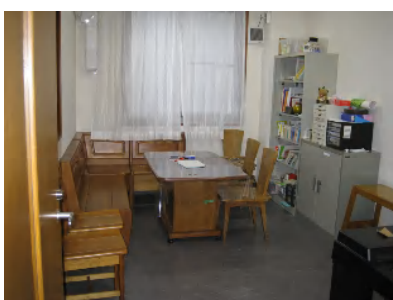
### 多目的ホール



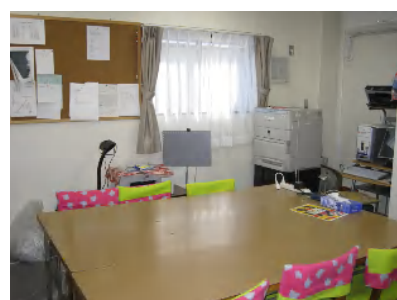
### 2階 教会学校



### 中高生会



### 作業室



## 信徒会館リフォームに携わって

リフォームチーム長 蛭田

現在の信徒会館が完成したのは、今から40年前の1971年7月11日でした。丁度、私がこの教会で結婚式を挙げた翌月で、信徒会館と共にこの教会で「信徒人生？」を歩んできました。それだけに昨年、リフォームチームに任命された時は、何だか神様に「あなた自身も信徒としてのリフォームをなさい。」と言われているような気がしました。

昨年5月から松村主任司祭を始め、各会から選ばれた11名のメンバーで毎月会議を重ね、リフォーム案を検討してきました。とりわけ建築に精通しておられる久本さんが加わられたことで、竹中工務店との話し合いもスムーズに進み、予定の工期内で完成することが出来ました。

今まででも報告致しましたように、リフォームの狙いは、①高齢化社会に配慮した「くつろぎの場」の確保。②デッドスペースの改善による限られたスペースの有効活用。③整理・整頓の徹底。などですが、今回リフォーム中に倉庫などの整理整頓が出来たことは大きな収穫でした。また将来の教会を担う教会学校と中高生会の部屋を隣接させ、一つのパワーとして活動出来るようにしたのも良かったと思います。欲を言えばまだまだ改善の余地がありますが、ほぼ計画通りにいったのではないかと自負しています。今回のリフォームへの関わりはわずか1年足らずでしたが、私自身、教会を見直す一つの機会を得たことは、これからの小教区での関わりの中でも非常に勉強になりました。

ただ確かに器はきれいになり、使い勝手良くなりましたが、これをいかに有効に、何の目的で活用するか信徒一人一人のこれからの内面のリフレッシュにかかっているのではないのでしょうか。仲良しクラブの交流の場だけに終わらせることなく、信徒としての使命である宣教、司牧の場として生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、工事の期間中、皆様にいろいろご不便をおかけしたことをお詫びするとともに、いろいろご協力いただいたことにあらためて御礼申し上げます。

## 信徒会館リフォーム工事を終えて

施設管理部 久本

一昨年、松村神父様が六甲教会に赴任された時に、施設管理部のコーディネーターとしてご挨拶に伺い、教会の建物の使い勝手、無駄な空間、防犯上の問題点、建物の安全性と改修の必要な場所などに関して、私がかねてより感じていたことをお話する機会を得、また神父様のご意見を伺うことが出来ました。その後、信徒会館のリフォームが評議会で決定され、リフォームチームのメンバーとなり、基本的な計画を立てました。実施設計は竹中工務店の設計部に委託、予算に合わなくて、設計の変更を重ね、最後は無理やりこちらの予算に合わせてもらって、施工は竹中工務店となりました。

建物を使用しながらの工事でしたので、信徒の皆様にはご不便をおかけし、駐車場も狭くなり、ご迷惑をおかけしましたが、無事に竣工でき、安堵しております。竹中工務店の設計部、工事部の方々是我的意図するところを丁寧にくみ取ってくださり、設計図書となり、目に見える形となり、気持ちよく仕事が進み、楽しい1年でした。このような機会を与えてくださったことに感謝しています。

今年度で私は施設管理部のコーディネーターを辞します。2年間、教会の建物・家具備品を管理して、最後に信徒の皆様にも、お願いしたいことは建物・備品を大切に取り扱いいただきたいと思いますということです。想定外の壊れ方をしたのを見た時は残念でたまりませんでした。今回、皆さまのおかげで、リフォームでき、家具も新しくすることが出来ました。大切に使って次の世代に渡すことが私たちの務めだと思います。



## “ 洗礼志願式 ” に与って



13日、四旬節第1主日のミサの中で「洗礼志願式」が行われた。久々に預かる洗礼志願式、しかも前晩のミサを合わせると12名の方が洗礼志願式を授かったと聞いています。

巷では教会離れ、高齢化による信徒の減少、先細り教会等々、ここ数年、教会についてよい評判を聞いたことがありませんでした。そんな時に、ここ六甲教会で12名の方が洗礼志願式に授かったことは、何を意味するのでしょうか。「ふっと！」そんな思いが脳裏をよぎりました。いろいろな思いが志願者の方々にあって、その彼らの「思いと願い」が今、一つになって神様の望みと重なったのでしょうか。その「思いと願い」をいつまでも大切にしてお守りすることを祈ります。

これから洗礼志願者としての40日間、キリストによって、キリストと共に、キリストのうちに過ごされ、「キリスト者」とは何か。「キリストに生きる」ってどういうことかを“じっくり”と信者の方々の姿をご自身の目で見、学んで、育んで戴きたいですね。

きっと40日後には、神様からの素晴らしい恵と大きな暖かい喜びを戴くでしょう。

喜びを共にした男より



## 音楽関係奉仕者の集いを終えて

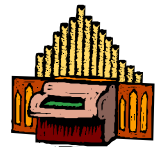
オルガン奉仕者 清水

2月20日 音楽関係奉仕者の集いを行いました。今年はオルガン、独唱奉仕者だけでなく、結婚式、葬儀の聖歌奉仕グループのメンバーにも参加頂き、約50人余りの大きな集まりになりました。始めに松村主任司祭より、聖歌隊の結成目的、ミサにおける音楽の重要性をミサの流れとともにお話し頂きました。日頃は当番の準備に追われる奉仕者ですが、私を含めて奉仕者として音楽の担う重要性を再認識することができました。

その後オルガンと独唱の奉仕者は、各グループに別れ、事前アンケートをもとに、自分自身の奉仕内容を振り返りました。音楽奉仕は個人での練習が基本となります。なかなかそれぞれの疑問を話し合う事はありません。分かあいの時を持ち、お互いの問題点を共有し解決することができました。

また聖歌隊についての詳細説明をしました。現在結婚式や葬儀に聖歌を奉仕していただいていたグループは、今後は典礼部聖歌隊の中で新たにスタートを切る事になります。現在のグループはオマリー神父様の主任司祭時代に婦人会を中心に結成され、様々な人生の節目に聖歌で花を添えてこられました。長い間のご奉仕に心から感謝いたします。現在の結婚式・葬儀聖歌奉仕グループは聖歌隊となりますが、今後も聖歌隊として奉仕を続けていただけるかどうかのアンケートを取りました。これからは皆さんが必ず経験する一生一度のセレモニーを、祈り深い荘厳な式になるように聖歌隊メンバーとして取り組んでいきたいと思えます。

これからも「音楽を通じて奉仕できる喜びを忘れずに過ごすことができますように」とあらためて願う集いのひと時でした。 神に感謝



## 各部だより

### 📖 典礼部

4月3日(日) 10時ミサ中、  
「聖体授与の臨時の奉仕者」  
「集会祭儀司式者」任命式  
任命される奉仕者の方は必ず  
ご出席ください。



10日(日) 10時ミサ中、共同回心式  
17日(日) 13時～ 聖堂において  
聖週間典礼奉仕者の説明会  
聖週間の典礼奉仕をお願いした  
方々は必ずお集まりください。  
ご復活を迎える準備をいたしましょう。

### 📖 教会学校

4月9日(土) 入学式&始業式  
16日(土) 通常  
23日(土) 通常  
30日(土) お休み

### 📖 社会活動部

4月8日(金) 第2会議室にて  
2011年度第1回の連絡会  
を十字架の道行き後に行い  
ます。各グループ必ずご出  
席ください。







## 《 お知らせ 》

### ★社会活動部より★

- 4月 6日(水) 10時 ♪手芸の集い 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。  
9日(土) 10時 ♪炊き出し 小野浜グラウンドにて、配食やおじさんたちのお話し相手だけでもOKです。  
17日(日) 10時ミサ後 ♪ミニバザー (イグナチオホール) お弁当・手作り品等の販売  
25日(月) 9時半 ♪ともしび ケーキづくり お台所

### ★事務所より★

- ・信徒会館リフォームに伴い、各倉庫、ロッカーの整理をしました。決められた場所に保管し、定期的に整理整頓を行って下さい。
- ・各部共通の備品類(カメラ、ビデオカメラ、プロジェクター、携帯マイク等)は事務所で一元管理します。必要な場合は事務所にお問い合わせ下さい。
- ・4月より Sr 古屋敷が事務所のお手伝い(毎週月曜日のみ)を致します。

### ★広報部より★

- ・4/2(土)より地区会を通じて「2011年度教会しおり」(一世帯1冊)を配布致します。年間行事や地区会など大事な情報が入っていますので、必ずお受け取り下さい。ご不明な点は地区長・ブロック長にお尋ねください。



## みんなの広場

### 四旬節

ヨハネ 三好

3月9日は灰の水曜日、四旬節がはじまる。3月は春、月の終わり頃は桜も咲き世は浮かれる。昔、四旬節は「歌舞音曲の類を慎み」などと言われた。今はそんな言葉を聞くことはなくなった。主日のミサでオルガンを弾いていた頃も、四旬節になると聖歌の伴奏だけ、前奏も聖体拝領の間もオルガンは弾かなかった。四旬節になると日常の中にも何か違った思いがあった。

新聞に時折毎朝亡くなった人の位牌の前で手を合わせている人や、毎朝お経を読んでいる人の記

事や写真を見ることがある。記事になるのだから一般の日常のことではないのだろう。今は四旬節だと言っても普段の生活は変わることがない。「わたしの国はこの世には属してはいない」と主は言われたが。



## 「東北地方太平洋沖」 大地震

山本



3月11日（金）14時46分頃、三陸沖を震源とする大地震が起きた。北海道から九州にかけての広い範囲で揺れと津波に見舞われた。地震の規模はM9.0。阪神大震災の約1450倍。

太平洋沿岸地域の壊滅的な被害が明らかになって来た。町や村が津波に消えた。テレビから伝わる現場の情報に愕然とする。福島第一原発も被害を受けた。死者・行方

不明者が2万5000人を超えた。この地異がいかなる数字で歴史に刻まれるのか見当もつかない。いまだ事後ではなく最中である。今も肉親を捜し求めている人。家を失い、財産を失い、仕事も失い、厳しい避難所生活。復興には時間と立ち上がる気力が必要だ。

このさなか、16日付け北京紙「新京報」は「感動」という見出しを付けて次の出来事を大きく掲載。『女川町入りした中国国営新華社通信記者の記事によると、地震が発生した11日午後、同町の水産会社で研修する大連出身の中国人女性研修生20人が会社の寮の近くでうろたえていたところ、同社の役員が「津波が来る」と全員を高地にある神社に避難させた。研修生の安全を確認した後、役員は家に残した妻と娘を捜しに戻ったが、研修生たちが見ている前で津波にさらわれた。役員一家は現在も行方不明のままだという。』ネットでは災害時に自分の家族よりも、会社に来ている外国の若者のことを優先する日本人の優しさと責任感に涙した。など、大きな反響を呼んでいる。

石巻では倒壊家屋から16歳の少年と80歳の祖母が9日ぶりに救出された。「救える命がまだあるに違いない」という一念で、不眠不休の警察官4人の巡回が功を成した。

地震列島の沿岸に原発を並べて築いた原子力発電。想定外まで想定した多重の安全装置ではなかったか。12日に1号機、14日に3号機が爆発した。放射性物質を含む水蒸気を外気へ放出。原発事故に関わる人々は被爆覚悟の作業である。海水をへりで運ぶ米軍・自衛隊パイロット。東京消防庁隊員の原子炉を冷却する放水活動。原子炉に直接関わる50名（交替員なし）。自衛隊による原子炉建屋の瓦礫排除作業等など。彼らが恐怖心を克服し任務に当たっていることに敬服の念を抱くと同時に彼らの家族にも感謝したい。

また、海外から多くの支援の申し入れが100カ国を超える。政府間のやり取りだけではなく、企業、一般市民、個人からの支援へと広がっている。

地震・津波の災害・原発の被害という未曾有の悲惨な中に、命を顧みず、只ひたすら復興活動に携わる人々。隣人への思い遣り。そして、希望へと立ち向かう人々の姿を見る。

復旧作業に携わる方々への感謝と祈りのうちに。



※ この原稿を書かれた山本さんも従兄弟夫妻(石巻)、その息子さん夫妻(塩釜)の消息が2週間余りも分からなかったけれど、やっと生存が確認出来ました。

#### 広報部員のつづやき

途方もなく被害が大きい災害。その災害の終結はいまだ見えない。一条の光さえ見えないような世情にも胸に灯のともる行為がある。私たちは人として近くから、遠くから励ましたい。

生きている不思議 死んでいく不思議 呼んでいる 胸のどこか奥で  
かなしみの数を言い尽くすより 同じくちびるで そっとうたおう  
閉じていく思い出の そのなかに いつも 忘れたくない ささやきを聞く  
海の彼方には もう探さない 輝くものは いつもここに  
わたしの中に 見つけられたから ー 千と千尋の神隠しより抜粋 ー (浮雲)

教会報5月号の発行は、5月1日(日)です。  
編集会議は4月24日(日)です。  
記事原稿は、4月17日(日)正午までに信徒会館  
受付へご提出願います。 (広報部)  
<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会  
〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21  
電 話 078-851-2846  
F A X 078-851-9023  
発行責任者 松村信也 神父  
編 集 広 報 部